

本願寺 御歴代門主シリーズ

その二

本願寺第三代宗主

覚如(かくによ)上人(一二七〇～一三五一年)

覚如上人は親鸞聖人の曾孫に当たられ、親鸞聖人が七くなられた八年後の文永七年(一二七〇)にご誕生されました。

文永九年十一月、親鸞聖人の末娘の覚信尼公(かくしんにこう)は、関東の門弟たちの協力を得て、親鸞聖人の墓所を鳥辺野の地(現在の知恩院の東側)より、東山大谷の地(現在の知恩院山門の北側、崇泰院のあたり)に移し、六角の廟堂を建立されました。

そしてこの廟堂の管理役として「留守職(るすしき)」を置き、聖人の子孫がその役職に就くこととなりましたが、覚信尼公が往生された後、この留守職をめぐる紛争が生じ、最終的にはこの大谷の地の領家である青蓮院の裁決により、覚如上人が廟堂の留守職に就かれました。

上人の大きな功績は「本願寺」の寺号を創唱されたことあります。

上人はこの本願寺の創唱とともに、『口伝鈔(くでんしやう)』によって親鸞聖人の正しい法流が主張され、また『三代伝持の御影』を作製して、親鸞・如信・覚如の三代の血脈こそが正当な法門であることを示され、やがて大谷の廟堂は寺院として、そして留守職は



本願寺第三代宗主 覚如(かくによ)上人

宗主の性格を有するものとなり、今日の本願寺教団の基盤がつけられました。

また上人は、親鸞聖人の遺徳を讃仰した『報恩講式(ほうおんこうしき)』や親鸞聖人の生涯を絵巻物にまとめられた『本願寺聖人親鸞伝絵(ほんがんにしやうようになしんらんでんえ)』をつくられ、今日の報恩講に用いられています。

このほか、上人は、執持名号(しゅうぢみょうごう)の極意を示された『執持鈔(しゅうぢしやう)』や、一部の異端に流れている門流を批判した『改邪鈔(がいじゃしやう)』を著されました。

上人は觀念二年(一三五二)正月十九日(旧暦八十二歳)で往生されました。

没後には上人の遺徳がたたえられ、上人の子・慈俊(じしゆん)の選により上人の伝記を描いた絵巻物『慕帰絵詞(ぼきえことば)』(重文)や、上人の門弟乗専(しようせん)により『最須敬重絵詞(さいしゆきやうじゅうえことば)』が編集されました。

※参考文献 福岡光起著「親鸞聖人と本願寺の歩み」(永田文昌堂)

今後の法要スケジュール

「仏教婦人会報恩講」(善教寺本堂)

三月 八日(金) 追悼法要：午後一時半～

昼席：午後二時～

九日(土) 朝席：午前十時～

総会：午後一時半～

昼席：午後二時～

講師 足利孝之師(兵庫県尼崎市 安養寺)

\* 送迎マイクロバスを運行します。

\* 仏教婦人会主催法要

\* 仏婦会員追悼法要・仏婦総会開催

「宗祖聖人月忌」

門信徒祥月命日法要」(善教寺本堂)

三月 十六日(土) 午後一時半～

\* 毎月十六日に本堂において勤めております。

「柏原春季彼岸会」(柏原説教堂)

三月二十一日(木) 昼席・夕席

二十二日(金) 朝席・昼席

講師 武田義香師(西条町助実 教正寺)

ご縁に感謝

善教寺ホームページ『縁』 <http://www.otera.or.jp/> メール [zenkyo@otera.or.jp](mailto:zenkyo@otera.or.jp)